

厚岸湖・別寒辺牛湿原学術研究奨励補助金：研究概要
大黒島で繁殖するコシジロウミツバメの行動追跡

筑波大学生命環境地球学群・生物学学位プログラム

中嶋 千夏

はじめに

無人島の大黒島で暮らす海鳥であるコシジロウミツバメの調査を行いました。コシジロウミツバメの個体数は世界的に減少しています。コシジロウミツバメがどんな場所で餌を採り、冬を過ごしているかを調査することで、コシジロウミツバメの減少を防ぐことに役立てます。

どのように調べる？

超小型の位置記録計をコシジロウミツバメに装着することで、繁殖に影響を与えずに調査を行います。取り付けた位置記録計は、「GPS ロガー」と「ジオロケーター」というものです。GPS ロガーでは人工衛星から正確な位置情報を知ることができます。ジオロケーターは、太陽の動きを利用して大まかな位置情報を知ることができます。GPS ロガーは充電が最大でも数週間しか持ちませんが、ジオロケーターは1年以上充電が持ちます。そのため、GPS ロガーでは雛を育てている親鳥がどこに餌を採りに行っているか、ジオロケーターでは親鳥がどの場所で冬を過ごしているか、を調べる目的で装着しました。

どんなことがわかった？

GPS のデータから、今まで分かっていなかった大黒島のコシジロウミツバメがどんな場所で餌を採っているのかがわかりました。また、どのような経路を通して大黒島と餌を取る場所を往復しているのかが明らかになりました（図1）。ジオロケーターは1年後に回収して、この冬にどこへ移動していたかを明らかにする予定です！

今後の展望

GPS のデータや、来年回収予定のジオロケーターのデータから、コシジロウミツバメが利用している海域を特定して、コシジロウミツバメの保全に繋がたいと考えています。

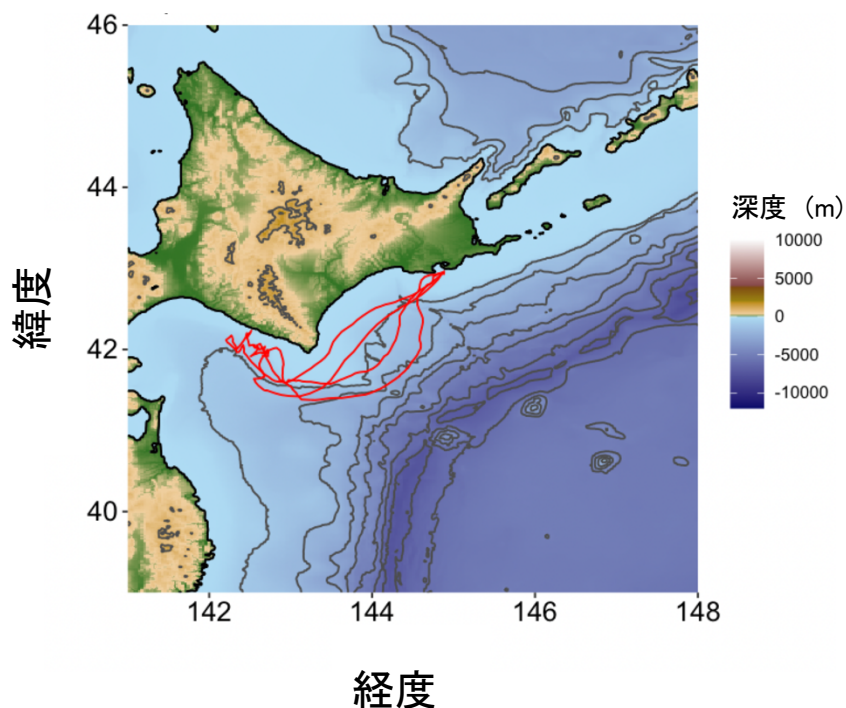


図1) コシジロウミツバメが餌を取る場所の一例